



西与賀小学校  
道徳だより

# こころん



令和4年7月7日  
文責 徳川 知子



## 町探検で育む道徳性

らくがき、  
消したいね。

6月23日、2年生が「西与賀町クリーン大作戦」を行いました。きっかけは、生活科の町探検でした。

6月9日の探検の時、公園に着いて遊び始めた子供たちは、すぐに、公園の落書きを見つけて、次々に近くの教員に伝えに来ました。

「消したいね。」「途中にごみもたくさんあったけん。」  
口々につぶやく子供たち。



そんな子供たちの思いを感じた担任たちは、次の探検の際に、ごみ袋を準備して出発しました。すると、田んぼの方を歩いている時には少なかったごみが、人や車の通りが多くなる地域の道路では、格段に多くなっていることに気づきました。町探検の片手間ではできるとはしないと、子供たちは、後日、学級ごとに話し合い、6月23日の「西与賀町クリーン大作戦」を行ったのです。



車が通る道に来たら、ごみが多くなってきた。

最初の探検の時に、落書きを発見した子供たちが「なぜこんなところに書くのだろう」と違和感をもったり、道路を歩いている時に「どうして捨てるところじゃないのに、ゴミ袋があるのだろう。」と違和感をもったりしたように、子供たちはとても素直で、正しい感覚を働かせるものです。その感覚を、「素晴らしいことだね」と受け止め、大切に取り扱っていくことが、道徳性を育てることにつながります。

今回、実際に「西与賀町クリーン大作戦」を行えたことは、子供たちの心の中に、「公共心や公德心」を育てることにつながりました。また、暑い中、学年のみんなでごみ袋にたくさんのごみを集めることができ「勤労」や「集団生活の充実」という道徳的価値を大切に思うことにもつながっていたと思います。



「西与賀町クリーン大作戦」の様子

「西与賀町クリーン大作戦」の終わりがけに、一人の子が「先生見て。」と道路の向こう側を指さしました。「なあに？」と答えると、その子は、「水がキラキラしてきれいだよ。」と教えてくれたのです。

指さす方には、水が張られたばかりの田んぼが広がっていました。まさに、6月の西与賀町の風景でした。



水が張られた田んぼ。故郷の風景として覚えていて欲しいですね。

「自分たちの住むところをきれいにしたい。」という気持ちから行動した、「西与賀町クリーン大作戦」。そして、そこで感じた、ふるさと西与賀の美しい風景。

人が成長するのに大切な「郷土愛」も感じる場となりました。

**このように、道徳性は学校の教育活動全体で育まれています。**